

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 19 日現在

機関番号：33905

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22320025

研究課題名(和文) 公共知の形成 東西比較による18世紀学の展開

研究課題名(英文) Formation of Public Knowledge: Comparative Study of the 18th century East and West

研究代表者

高橋 博巳 (Takahashi, Hiromi)

金城学院大学・文学部・教授

研究者番号：70109833

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 16,100,000円、(間接経費) 4,830,000円

研究成果の概要(和文)：この間の活動で特筆すべきは、2011年7月25-29日、グラーツで開催された国際18世紀学会に前々回より引き続いて、韓国学会と共催で二つのラウンドテーブルを組織し、公共知の東西比較をテーマに研究交流を重ねてきたことである。その後、2013年5月11日のソウル大学校における韓国18世紀学会の大会では、現在国際的にも先端を走っている日本の百科全書研究の現在を、鷲見洋一・寺田元一・逸見龍生が興味深く伝え、長尾伸一は公共知全般について、高橋が通信使研究の新局面を報告した。同年の秋季大会でも共催のかたちで研究交流を継続し、書籍のかたちでも早速韓国学会に受け容れられて、交流の実をあげている。

研究成果の概要(英文)：Along with other subject matters of public knowledge, emphasis was paid in this year's studies on the comparative analysis of the developments of encyclopaedic knowledge in Europe, Korea and Japan.

At the joint international workshop of Japanese and Korean Societies for 18th century studies at Seoul University on 11th May 2013, Yoichi Sumi, Motoichi Terada and Tasuo Hemmi presented papers on Encyclopaedia in France, Hiromi Takahashi presented on Korean envoys in the Edo period and Shinichi Nagao gave the overview of the concept of public knowledge. Another Joint workshop was held in the Autumn Conference 2013 of Korean Society, too.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・思想史

キーワード：公共圏 啓蒙 百科全書 学芸共和国

1. 研究開始当初の背景

本研究は近年の啓蒙研究の新たな展開を踏まえ、18世紀のヨーロッパと東アジアを共時的に捉える枠組みを構想し、この時代に特有な「公共知」をこれ以後に確立された、(1) 知の公開性(2) 知の有用性(3) 知の「公」の性格の先駆形態と見て、その特徴をヨーロッパと東アジア双方の知的伝統の比較を通じて明らかにしようとした。

東アジアにもヨーロッパの学芸共和国に匹敵する文人社会が国境を越えて成立していたことを確認し、その実質的な内容も西洋のそれに比べて遜色のないものであることが解明されてきた。他方、百科全書研究においてはデジタル化を推進し、その知の体系を根本から解明しつつある。その双方で、本研究会は韓国18世紀学会とも緊密に連携して、「啓蒙と東アジア：相互性のプリズムを通じた18世紀学の構築」の蓄積を元に新しい18世紀研究を目指した。

2. 研究の目的

ヨーロッパと東アジアが共有した18世紀の知の有り様を以下の観点から把握する。

- (1) 国境を越えて公開された知の世界
 - (2) 近代化に結びつく知の公論への発展
 - (3) 科学的、技術的知の体系化と普及における知の有用性
 - (4) 各領域の現代的な分離を超えた領域横断的な知の接近可能性
 - (5) 知のテキストの修辭的性格の高さ
 - (6) 異種として分化してゆく専門的知の膨大化に対して、それらを原理的に一望する知の包括性
 - (7) 以上のような状況を支える知識人と公衆のネットワークの展開
 - (8) 知の流通を保障する出版文化の興隆
- こうして18世紀の知の固有の性格を公共知形成の観点から究明する。

3. 研究の方法

18世紀の公共知の形成を東西比較にて行う。東西の百科全書の知の成立に典型的に見られる共時的な知の構造化、および東西の知における公共性の觀念の生成、包括的な科学的知の枠組みの成立、出版文化や公共圏の形成などの諸観点から把握する。そのために研究分担者とともに各領域で一次資料の分析し、成果を国際・国内双方の学会・研究集会で検討をかさね、体系化を行う。

4. 研究成果

最初の成果は、本研究会の前身18世紀科学研究会の成果を『啓蒙と東アジア』のタイトルのもとに集成したことである(総ページ170頁、2010年)。本集には、孟華北京大学教授の「ヴォルテールと孔子」と題する仏語論文をはじめ、全メンバーの労作を収録し

た。2011年2月12日には、同年開催の国際18世紀学会の予備セッションとして、二部構成の研究会を名古屋大学で開催した。共催でラウンドテーブルを組織する韓国18世紀学会から、Lim Misun, Jung Byung Sul, Mon Hi Kyung, Choi Julie, 安大会氏ら、京都から増田真・橋本周子両氏、広島から隠岐さや香・川和田晶子両氏の参加を得た。当の国際18世紀学会は、2011年7月25-29日、オーストリアのグラーツで、一つはPublic Knowledge in the East and the West: Comparative perspective と題し、もう一つはIn and Out of Time, East and West と題して組織され、前者のほうで高橋は、A “Republic of Letters” Circulating around East Asia と題する発表を行い、後に同題で『金城学院大学論集』人文科学編第8巻第2号(2012年)に収録した。同テーマで発表したものに、「ソウルに伝えられた江戸文人の詩文 東アジア学芸共和国への助走」(『一八世紀日本の文化状況と国際環境』思文閣出版、2011年)、「十八世紀東アジアを行き交う詩と絵画」(『蒼海に交わされる詩文』東アジア海域叢書13、汲古書院、2012年)、「通信使行から学芸の共和国へ」(『日本近世文学と朝鮮』勉誠出版、2013年)などがあり、18世紀の東アジアでまさに the Republic of Letters (学芸の共和国)が日朝中三国のあいだに形成されていたことを明らかにした。

2012年3月には、フォヴェルグ・クレール・鷺見洋一両氏が名古屋を離れることになったために、ライプニッツと百科全書をめぐる研究会を開催した。同年6月の名古屋大学における日本18世紀学会にあわせ、韓国から安大会・金時徳両氏を招いてセッションを行い、これをきっかけに翌2013年5月11日、ソウル大学校で開催された韓国18世紀学会の春季大会に、本研究会から鷺見洋一・寺田元一・逸見龍生・長尾伸一・高橋が参加し百科全書と公共知、それに通信使をめぐる発表を行い、韓国学会と知見を交換した。

この間、2012年4月にはベルトラン・ピノシュ(パリ第1大学)、2014年3月にはアン・トムソン(European University Institute, Florence)の両氏を招いて研究会を開催した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計12件)

渡辺浩「この国」の起源：本居宣長の思想とその影響」(法政大学国際日本学研究所『国際日本学』第11号、2014年、pp231-241、査読無

高橋博巳「通信使行から学芸の共和国へ」、『日本近世文学と朝鮮』勉誠出版、pp62-83、2013年、査読無

鷺見洋一 Traduire Diderot aujourd'hui,

Recherches sur Diderot et sur l'Encyclopédie, vol.1076, pp19-36, 2013, 査読無

Alexandre Guilbaud, Irène Passeron, Marie Leca-Tsiomis, Olivier Ferret, Vincent Barrellon, Yoichi Sumi, Tatsuo Hemmi, Takeshi Koseki, Hisashi Ida, "Entrer dans la forteresse" : pour une édition numérique collaborative et critique de l'Encyclopédie (projet ENCCRE), Recherches sur Diderot et sur l'Encyclopédie, vol.1076, pp225-261, 2013, 査読無

寺田元一 『『生理学要綱』の間テキストの読解-ハラ- 『生理学初歩』との典拠関係を中心に-』、『思想』2013年12月号, pp187-212, 査読無

川島慶子 「マリー・キュリーのキャリアに見るジェンダーと科学の問題」 『女性学・ジェンダーの現在』第16期女性学講演会, 大阪府立大学女性学研究センター刊(2013): 21-50. 査読有

川島慶子 「ジェンダーの視点から見た、「科学者」マリー・キュリーの「成功」」 『化学史研究』第40巻, 第1号 (No.142) 2013: 20-33. 査読有

川島慶子 「科学アカデミーに挑んだ女: エミリー・デュ・シャトレと『火の論文』(1744)出版の意味」 『化学史研究』第40巻, 第1号 (No.142) 2013: 1-19. 査読有

川島慶子, "The Evolution of the Gender Question in the Study of Madame Lavoisier," *Historia Scientiarum*, Vol.23 No.1, 2013: 24-37. 査読有

伊東貴之 「戦後日本の中国思想史研究の諸傾向についての一考察 主として、島田虔次と溝口雄三の両氏を例として」, 『『中国的日本認識・日本的中国認識』学術討論会論文集』, 復旦大学文史研究院・復旦学報・国際日本文化研究センター, 2013年, pp71-95, 査読無

伊東貴之 「日本における東アジア海域交流史研究の現状と動向」, 『第18回海外シンポジウム「江南文化と日本」(復旦大学)報告書』, 国際日本文化研究センター, 2013年, pp139-151, 査読無

渡辺浩 「儒教と福澤諭吉」, 福澤諭吉協会 『福澤諭吉年鑑』第39号, pp91-116, 2012年, 査読無

[学会発表](計11件)

高橋博巳 「蒹葭雅集図の行方」 国際日本文化研究センター共同研究会, 2014年2月14日, 国際日本文化研究センター

高橋博巳 「文人研究から学芸の共和国へ」 二松學舎大学人文学会, 2013年12月21日, 二松學舎大学, 招待講演

鷺見洋一 「現代社会における記憶・記録の重要性」 社会デザイン学会, 立教大学, 2013年12月8日, 招待講演

川島慶子 「ランジュヴァン事件における、マリー・キュリー批判とジェンダーの関係」 ジェンダー史学会、於一橋大学, 2013年12月8日

高橋博巳 「李顕相と草場佩川 最後の通信使と最後の儒者」 ソウル大学校奎章閣講演, 2013年11月29日, ソウル大学校, 招待講演

高橋博巳 「玉堂片影」, 浦上玉堂シンポジウム, 大原美術館, 2013年11月16日, 招待講演

寺田元一 Sur l' intervention des encyclopédistes dans deux débats : l' introduction de la médecine chinoise et le développement du colonialisme européen, Séminaire organisé par Pascal Petit (Université Paris 13) (招待講演) 2013年10月17日 la maison des sciences de l' homme MSH de Paris Nord (フランス, パリ)

寺田元一 Un essai de lecture intertextuelle des *Éléments de physiologie (EP)* basée sur une recherche sur les *Primaes lineae physiologiae (PL)* de Haller comme source principale L' anthropologie matérialiste de Diderot et les sciences (国際研究集会) 2013年10月16日, Muséum National d'Histoire Naturelle (Amphi Rouelle) (フランス, パリ)

堀田誠三 *Luxury, Architecture, and Economic Science in the Works of Francesco Milizia, Lusso e Benessere tra Economia e Politica (Franciae italia 1750-1815)* Turin University, Italy, 2013年10月11日

玉田敦子 「新旧論争と「完成」の概念」, 公共知研究会, 名古屋大学, 2012年12月22日

逸見龍生 「『百科全書』におけるジェームズ医学事典の利用形態」 慶應義塾大学百科全書研究会, 2012年6月30日, 慶應義塾大学, 招待講演

[図書](計4件)

高橋博巳 『草場佩川』 佐賀城本丸歴史館, 110頁, 2013年

鷺見洋一 『『百科全書』情報の玉手箱をひもとく』 慶應義塾大学図書館, 92頁, 2013年

川島慶子 "Emilie du Chatelet et Marie Anne Lavoisier," Paris, Honore Champion, 2013, 314ページ.

玉田敦子, 桃井治郎 『近代と未来のはざま』 風媒社, 2013年, 225頁

[その他]

ホームページ等

高橋博巳

<http://tdb.kinjo-u.ac.jp/takahashi>

長尾伸一

<http://www.soec.nagoya-u.ac.jp/htm/staf>

f/nagao.html
寺田元一
<http://www.hum.nagoya-cu.ac.jp/~terada/>
伊東貴之
<http://www.nichibun.ac.jp/research/faculty/staff/ito.html>
川島慶子
http://www.ne.jp/asahi/kaeru/kawashima/j_home.html

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋博巳 (TAKAHASHI, Hiromi)
金城学院大学・文学部・教授
研究者番号：70109833

(2) 研究分担者

鷲見洋一 (SUMI, Yoichi)
慶応義塾大学・文学部・名誉教授
研究者番号：20051675

(3) 研究分担者

渡辺浩 (WATANABE, Hiroshi)
法政大学・法学部・教授
研究者番号：10009821

(4) 研究分担者

安藤隆穂 (ANDO, Takaho)
名古屋大学・経済学研究科・教授
研究者番号：00126830

(5) 研究分担者

長尾伸一 (NAGAO, Shinichi)
名古屋大学・経済学研究科・教授
研究者番号：30207980

(6) 研究分担者

堀田誠三 (HOTTA, Seizo)
福山市立大学・都市経営学部・教授
研究者番号：40144109

(7) 研究分担者

寺田元一 (TERADA, Motoichi)
名古屋市立大学・人間文化研究科・教授
研究者番号：90188681

(8) 研究分担者

逸見龍生 (HENMI, Tatsuo)
新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授
研究者番号：60251782

(9) 研究分担者

川島慶子 (KAWASHIMA, Keiko)
名古屋工業大学・工学研究科・准教授
研究者番号：20262941

(10) 研究分担者

伊東貴之 (ITO, Takayuki)
国際日本文化研究センター・研究部・教授
研究者番号：20251499

(11) 研究分担者

玉田敦子 (TAMADA, Atsuko)
中部大学・人文学部・准教授
研究者番号：00434580

(12) 研究分担者

大石和欣 (OISHI, Kazuyoshi)
東京大学・総合文化研究科・准教授
研究者番号：50348380

(13) 研究分担者

フォベルグ・クレール (FAUVERGUE, Claire)
名古屋大学・文学研究科・特任准教授
研究者番号：50584869